

鉄道高架構造物の色彩検討における合意形成の一手法について

(株)復建エンジニアリング 正会員 ○高田 知枝

(株)復建エンジニアリング 正会員 井口 光雄

1. はじめに

国土交通省から「美しい国づくり政策大綱」が公表され、景観アセスメントや土木デザインに国民の関心が寄せられている。近年、社会資本整備事業において住民の多様化するニーズに対応していくことが求められており、関係住民をはじめとする関係諸機関との合意形成（P I：パブリック・インボルブメント）のもとに事業を実施している例が多くみられ、地域に適したまちづくりを形成するためには住民や地方公共団体、企業等各主体の役割分担及び協働が重要といえる。

本報告は、委員会方式の合意形成を想定した鉄道高架構造物の外壁色彩検討を行う。景観や色彩に関しては一人一人が異なった感じ方をするが、住民が日々の生活を送る様々な環境に対し、色彩によって快適性や安全性を感じられ、その価値を高めることができる色彩の選定が重要である。色彩検討において必要とされる手法を挙げ、検証する。

2. 合意形成に向けて

■合意形成の利点

- * 住民と事業者の情報交換により透明性がある
- * 施工時及び維持管理時に住民の理解を得やすい
- * 地域事業という認識が強まり愛される施設となる
- * 再開発やまちづくりにインセンティブを与える

■合意形成の注意事項

- * 検討内容以外に関することへ議論が拡大
- * 合意形成から施設整備までのタイムラグの発生
- * 社会情勢の変化が直接事業に関係
- * 地権者等、目的に応じた対象者の選定が重要

3. 色彩検討の流れ

■対象構造物と周辺状況

対象構造物：鉄骨造 4 階（建築物 8 階程度の高さ） 延長約 400m の駅舎、快速特急停車駅

周 辺 状 況：西側は商業地域が広がっており、東側は国道が鉄道路線と並走し、沿道に中層ビルが並ぶ

色彩検討を行う上で合意形成を得るには計画の方向性を目に見えるかたちで明確にすることが重要である。

そこで、今回は委員会方式の合意形成を想定し、委員会での開催毎の課題、検討内容を表 1 に示す。

表 1 色彩検討委員会における課題と検討内容

開催回	課 題	検 討 内 容
第 1 回	1) 色彩計画の コンセプト設定	外装色を決定する上で重要な要素だと思われることを選定し駅舎をまちのどのような位置付けとして捉えるのか、どういったイメージにするのかを決定する。
第 2 回	2) 配色の絞込み	カラーイメージを作成し、色彩の方向性をまとめる。 3 案程度に配色を絞りこむ。
第 3 回	3) 色彩決定	第 2 回委員会で絞られた色彩から各色の CG シミュレーションを使用し、色彩を決定する。

1) 色彩計画のコンセプトの設定

事業計画の背景などの根拠を体系づけ、説得力のあるしっかりした概念（主義・主張）を作りあげる。

区のまちづくりコンセプトや駅舎内部空間のコンセプトも考慮し、キーワードから駅イメージを決定した。

キーワード

持続的で安定 商店街のにぎわい 未来
個性的・街路樹 軽快 空港と港湾
近代的 活動的 生活と産業の共存
通りの多い道路 空港への玄関口
安心とやさしさ 清潔でさわやか

→
→
→

駅イメージ

将来の発展の可能性を内在する 人と人とのふれあいが
求められる 地域のランドマーク
商業・業務・娯楽・行政・福祉・文化を背景とする多様
な地域性を有する 最寄りの路線駅周辺と一体となった
区を代表する中心核

2 路線を有する規模の大きい駅舎であるということ、商店街に隣接する駅のため生活に密着しているということから、構造物を周辺環境に融合調和した景観とすることが相応しいと考えられる。

キーワード：色彩検討 景観 高架構造物 合意形成 CG シミュレーション

連絡先：〒103-0012 東京都中央区堀留町 1-11-12TK 堀留ビル (株)復建エンジニアリング TEL:03-5652-8563 FAX:03-3660-9374

2）配色の絞込み

カラーイメージ（図－1）を利用してコンセプトに沿った言葉を示す色を選定する。公共空間に関係するすべてのものの色彩の関係を調整して、秩序ある景観づくりをしていく。目立つ必要のない要素は低彩度色を使い、逆に目立たせたい要素は高彩度色を使う。今回の駅舎の色彩計画は公共的なものであり、あまり誘目性を必要としないので、鮮やかさを押さえた低彩度色の使用を基本とすべきである。環境の色彩計画にとって有効であると考えられる3つの基本的な色彩調和型を示す。

- ・類似色調和型 まとまりやすいが対象物が大きすぎると単調で変化に乏しい景観になる恐れがある。
- ・色彩調和型 近い色相にある色彩を組み合わせると環境に調和が生まれる。
- ・トーン調和型 色相は異なるがトーンを一定にすることによって色の強さが揃い、調和が生まれる。

本計画は「色彩調和型」が最良と考えられることから、表－2に示す3案を候補色として考案した。

3）色彩決定

3案のCGシュミレーションを作成し、比較を行った。今回の計画は規模が大きいため、他を圧倒し、壁面の多い駅となることから、街並みに調和した色彩を選定した。圧迫感を緩和することを中心に考え、今回の事業は駅と並行に走る国道から見通せるということもあり、集中力が散漫となり、落ち着きを欠く奇抜な色づかいは安全上、避けたほうが良いと考えられる。経済性、メンテナンス、軽快性を充分満たすものと思われ、際立つほどではないが、その存在を表す駅舎の色彩の採用が、地域特性と適合し、身近な駅施設として地域に親しまれていくものとする。全体の印象を明るくし、生活に密着していることを最重要項目と考えた場合、質の高い住環境が得られると考えられるあたたかみのあるC案を採用色とした。

表－2 CGシュミレーションによる比較

	A案	B案	C案
CGによるイメージ図			
コンセプト	近代的な要素を持ったにぎわいの あるまちをイメージした色彩	空港へつながる路線をイメージし、 軽快で未来的な色彩	産業とひとが共存する緑のある やさしいまちをイメージした色彩
選定色	グレーのグラデーション （3色使用）	薄いグレー 薄いブルー 濃いグレー	薄いベージュ 薄いグリーンライン
印象	一般的なイメージ	シンボリックなイメージ（鉄道会社のメ インカラーであるブルーを採用）	有機的なイメージ（緑を採用すること によって目にやさしい）
圧迫感	最も軽快である。	2段階の色を使用し下部を暗色にす ることによって圧迫感が軽減される。	横のラインが強調され、 圧迫感が緩和される。
色彩効果	等色相の濃淡系列を使ったグラデー ションで仕上げ、周辺の景観におだや かに調和させることが有効。	駅周辺の建築物がグレーということ もあり、周辺と調和している。また、 個性が強調されている。	ベージュ系を用いることによって質 の高い住環境をつくり、全体の印象を 明るくし、調和させている。

4. 結 論

今回は合意形成を想定した観点から鉄道高架構造物の色彩検討を行った。合意形成の手法としては、アンケートや委員会開催等が挙げられるが、住民に情報を提供する側の設計者の独断によるものが色彩検討の流れのなかで生じてしまうことは避けられない。しかし、今回用いたカラーイメージマトリクスのように色に対する一般的な考え方を適用させた配色、また、地域に適した配色の実現は土木構造物そのものの美しさや地域住民の心地よさにつながるといえる。今回使用したCGはコストがかからず短時間の作業で作成が可能であるため、合意形成の場で多いに役立つ。CGは計画を明確にする効果的な手段のひとつといえる。



図－1 カラーイメージマトリクス

参考文献：カラーコーディネートの実例 環境色彩 東京商工会議所 2003年6月